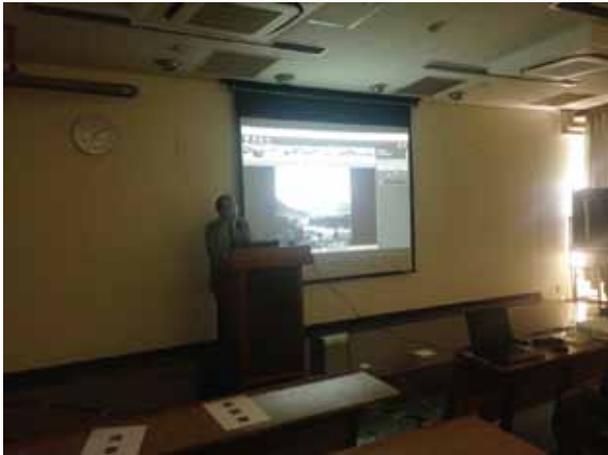


『デジカメで撮る昆虫と自然』

昆虫写真家 海野和男 要約：平井剛夫



海野和男氏講演の様子

小学校5年のとき、箱根で撮った写真です。この頃のカメラでは昆虫を撮れませんでした。最初に昆虫を撮ったのは、高校生の時でウスバシロチョウでした。大学では、東京農工大の研究室にいたとき、日高敏隆先生より『アサヒグラフ』の連載に載せるチョウの写真を頼まれて撮ったら、お金をもらえました。大好きな虫を撮ってお金をもらえるというので、次の日から昆虫写真家になりました。

大学3年の時、フィリピンにルソンカラスアゲハを採りに行きました。今このチョウは国際的に保護され採集できません。1973年、ベンゲットアゲハを撮りました。日本のナミアゲハにそっくりだけど、このように滑空して飛ぶ様子はマダラチョウに似ています。アサギマダラに擬態しているといわれています。

マレーシアのキャメロンハイランドに行きました。マレーシアのアオスジアゲハの仲間の雌雄で全種類を採れました。当時は採集できましたが、今は生息場所が変わってしまっ

て採集できません。『アニマ』という雑誌の記事に僕の写真が載っていたので、昨年、ドイツの学生が博士論文にするということで連絡を受けました。当時、台湾の埔里（プーリー）は、チョウ産業のメッカでした。その様子を写真で撮りました。もっと写真がないかといわれました。当時はフィルム3本で100枚くらいでした。チョウがいなくなったのと人件費が高くなって、今はこの産業が成り立ちません。

魚眼レンズに接写リングをつけてチョウと



魚眼レンズ使用し撮影した写真

周りの風景を撮るといって写真を撮りました。たまたま撮った写真でした。「これは自然科学の写真ではない」というひともいたのですが、賞をもらったので、こういう撮り方が自分のメインの撮り方になりました。アポロチョウはあこがれのチョウでした。スペインとフランスの国境で撮りました。これは沖縄のモンキアゲハの写真です。サンダンカの花にトイレットペーパーをデビュウザー代わりに使いました。ないものは、なんとか工夫してみるのが、日高研究室で学んだことでした。このアブラゼミの羽化の写真はお酒を飲んで酔っ払って撮ったものです。三脚を使い、長時間露光して、フォーカスを広角レンズにフラッシュしました。お酒を呑むというのもいいものです。既成概念がなくなるからです。自分が撮った写真は見方がちがうと認められるようになりました。

デジカメで最初に撮ったのは1968年で、160万画素でした。ピントが合う範囲が広くなりました。それに、デジカメは撮ったときの写真のデータが一日の時間までわかるので、後からとても参考になります。ただ、ウソがつけません。

小さなカメラほどピントが合います。これはギョロメ8号というレンズで撮ったものです。クサカゲロウです。チョウのおしっこを撮るにはシャッター速度が遅くないといけません。ホテルでは、バーで居合せたある女性に、フィリピンに行ってホテルの写真を撮ろうとして撮れなかったので撮ってくれませんかといわれました。かつてミラーレスとかコ



深度合成をした写真を説明

コンパクトデジカメカメラで撮れなかったのを広角レンズを使って撮れました。メキシコではこのようなオオカバマダラの写真が撮れました。ここへは海外から年間100万人ものひとがやって来ます。今、海外は、チョウを観ると撮るのが傾向です。

アフリカのカメルーンにオオキバドロバチというクワガタのような大きなあごをもっているハチの写真を撮りに行きました。クワガタのようにオスはケンカするに違いないと思ったからでした。ラッキーなことに行って5日目に撮れました。35日間の滞在中、撮れたのはこの日の一回だけでした。

これはアカトンボです。フルサイズで撮るとピントがあまくなります。おしりにピントが合うと頭がぼけます。F8はムシの写真に向かないですが、小さなコンパクトカメラだとシャープに撮れます。偏光フィルターを使って撮りました。コンデジ（コンパクトデジタルカメラ）を使うとこんなキジラミの写真が撮れます。ヤママユの眼玉模様が毛までわかります。

順番にピントを合わせてコンピュータで深度補正すると撮れます。標本だと簡単にできます。

これはツノゼミです。手持ちでできます。オオモンシロチョウの卵、カミキリムシの顔、氷の結晶、などが楽に撮れるようになりました。オウゴンクワガタの眼が2つに分かれています。ケンカをしたときに眼を守るためなのでしょう。アカエリトリバネアゲハ、オナガタイマイの眼玉です。環境とチョウとをピントを同時にあわせて撮ることができます。

カマキリを怒らせると動きが止まるので写真が撮れます。標本より細かいところがよくわかります。チョウセンカマキリは体の色が



カマキリを怒らせて動きを止め撮影

茶色のがいませんね。見た方ありますか。

ミヤマカラスアゲハの鱗粉も簡単に撮れます。魚眼レンズで深度補正ができます。シロコブゾウムシがこんなに細かくなります。カメラが撮ってくれます。1枚、2枚、…40枚、約40枚ですね。

ウスバシロチョウの卵です。シャープに撮れます。シロスジカミキリのギイギイ鳴らす部分をアップで撮りました。トンボはいるのは暗くて動きが速いので、撮るのが難しかったです。シャッターを半押しにして1,000分の1で撮りましょう。これはオオミドリシジミの飛び出すところです。スローモーションで撮るには8倍か6倍がちょうど良い。ヒメアカタテハ、オニヤンマのホバリング、こんな写真は簡単に撮れますが、今も、どこにくるか予測するのはむずかしい。

飛んでいるムシが好きだったから、むかしは広角でないと撮れなかったけど、今は、電子シャッターを使います。ただ、読み込みに時間がかかります。これはハナムグリの飛んでいる写真です。ハナムグリが翅を落とす、そう見える、ローリング現象がなせるワザです。

いろいろのチョウの飛び姿が撮れます。ルリマダラ、カバシタアゲハ、クロアゲハ、ウスベニヒョウモンモドキ、オナシアゲハ、シジミチョウ、グラヒューム（アオスジアゲハ属）のメス、グラヒュームのメスはとても珍しいです。それにオオクジャクアゲハです。

最近は、インターバルタイマーといった最新機材を使ってすごく簡単に写真が撮れます。

みなさん、カメラを使っていろいろ撮ってください。標本もいいけど、いま標本を受け入れるところがどこも少ないので、カメラで撮ってください。